

平成21年度三番瀬自然環境合同調査

5班考察・報告書「少数種について」

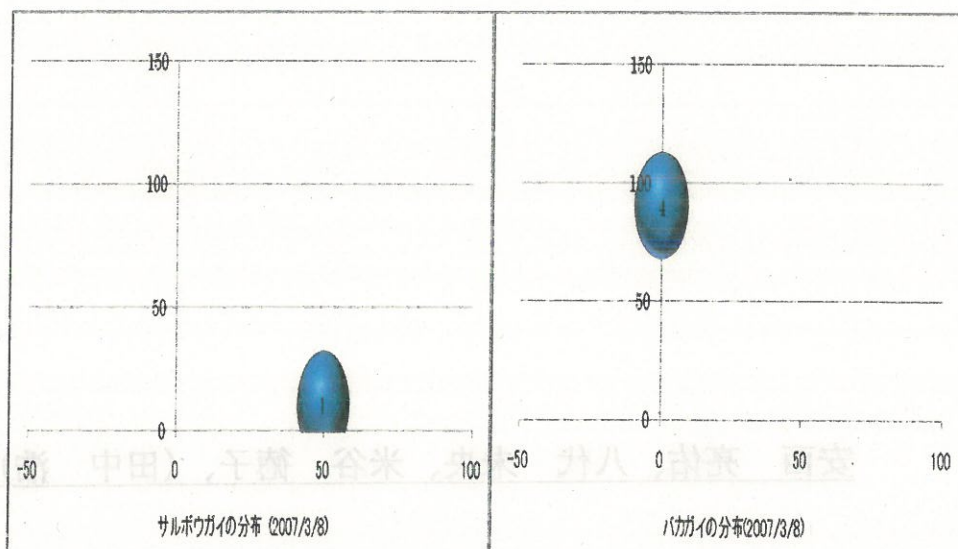
安西 亮佑、八代 未央、米谷 徳子、(田中 浩)

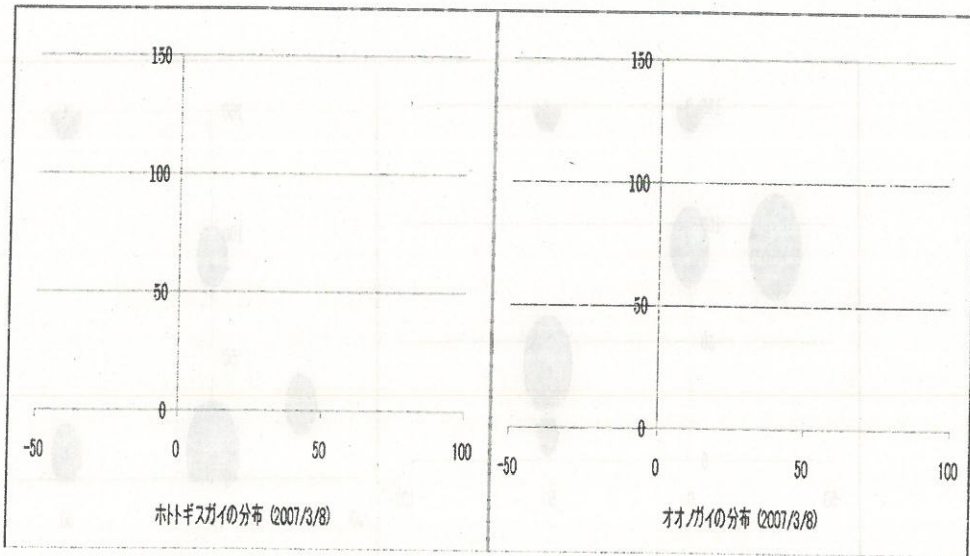
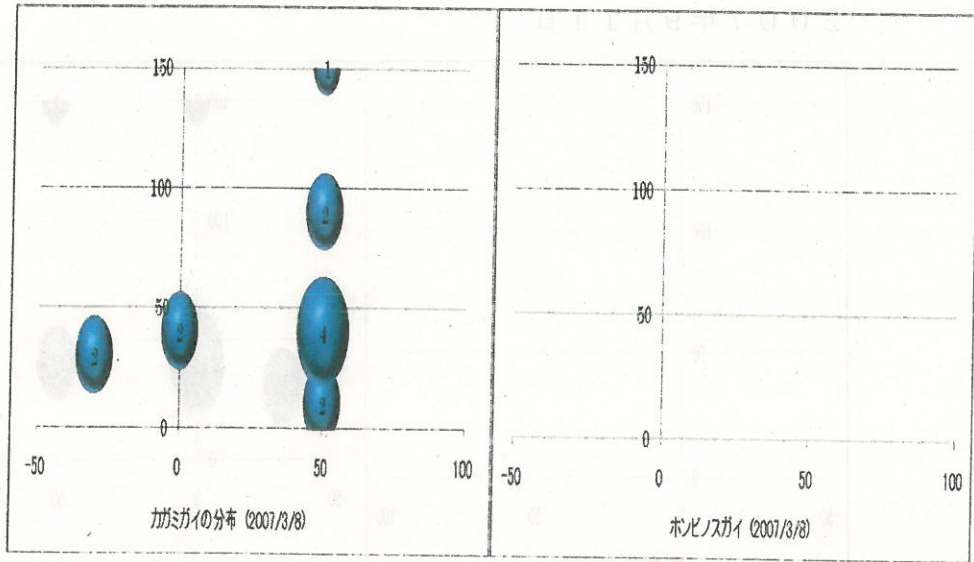
6月の調査では、海辺のレクや潮干狩り等の影響か（当日の調査地点付近でも人出が多かった）、又は5月の青潮の影響が残っていたか？底生生物の採集量は少なかったが、9月は多く採集でき、日の出干潟のポテンシャルの高さを改めて確認できた。この回復力の早さは、三番瀬海域（干潟・浅海域）が青潮等の被害を受けなかった場合、東京湾・湾奥部では溶存酸素量が多い（5.0～10.0ml/l）環境にある為と考えられる。
 {注1}

5班では（メンバーそれぞれが着目した）個体数は少ないが毎年出現しているサルボウガイ・バカガイ・カガミガイ・ホンビノスガイ・オオノガイ・ホトトギスガイ（主にサルボウ、カガミガイ、ホトトギスガイ）について考察を行った。

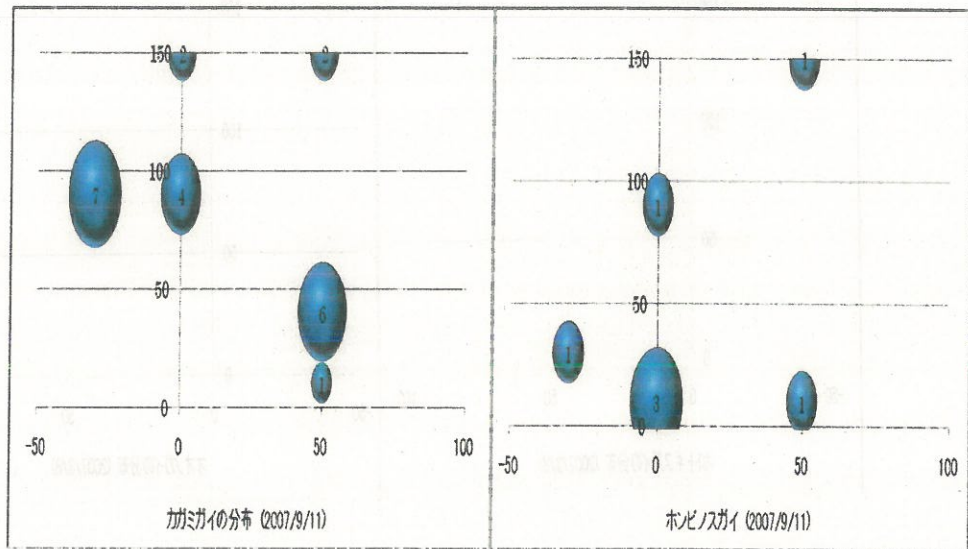
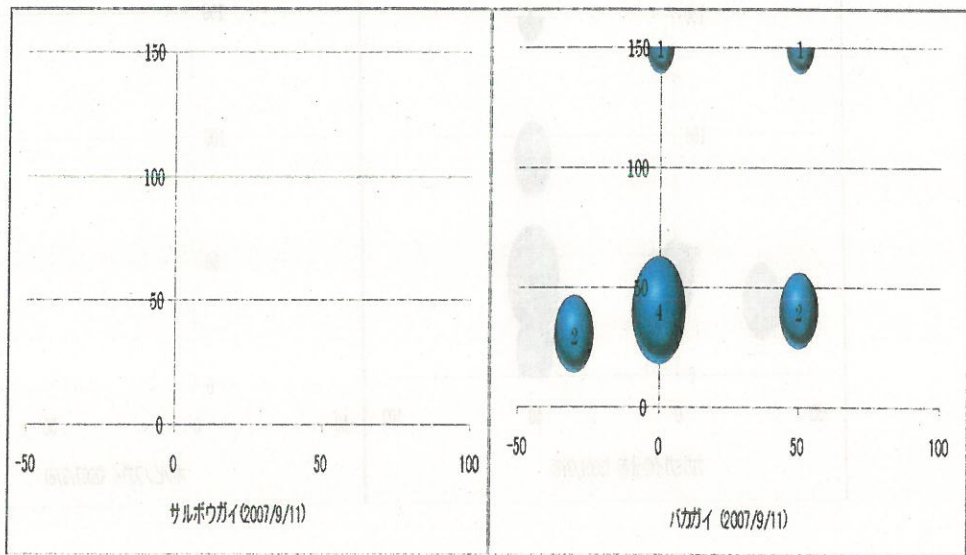
[1] サルボウガイ・バカガイ・カガミガイ・ホンビノスガイ・オオノガイ・ホトトギスガイの生息分布（2007～2009年度）

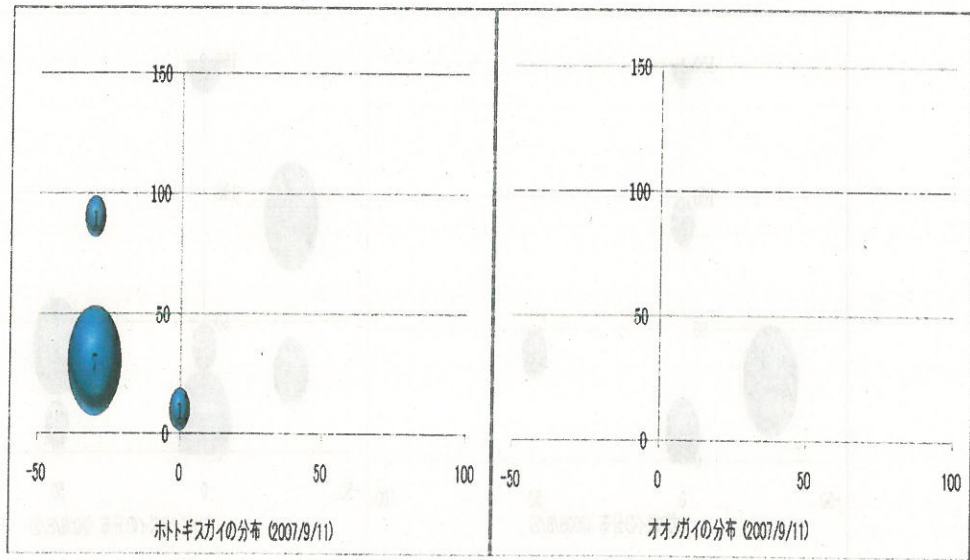
2007年3月8日





2007年9月11日





2008年8月2日

